

東京都立 多摩総合医療センター

地域保健と三師会

府中市歯科医師会 会長 中島 豊春

都

立多摩総合医療センターの皆様には私ども府中市歯科医師会をはじめ多摩地区歯科医師会の会員が患者の紹介、救急、また歯科医療全般に亘りご指導を頂き、大変お世話になっております。日頃の診療で、2次医療機関との連携があると言う事は非常に心強いものであり会員一同を代表して改めて感謝申し上げます。

平成21年国民健康・栄養調査の結果発表によれば、重点項目は「健康日本21」における「歯の健康」及び「食生活」とされました。歯の健康では8020（75歳～84歳で自分の歯が20本以上ある）達成者は26.8%で、前回調査の平成16年より3.8ポイント増加しました。また、75歳以上で何でも噛めて食べられる者は59.2%で、前回より4.8ポイント増加しました。高齢者の半数以上が多く歯を残し、また口腔ケアと歯科治療によって口腔の健康を維持し、健全な食生活によって健康に暮らしている事になります。また、幼児の予防処置のフッ化物塗布経験者は57.6%、フッ化物配合歯磨剤使用学童は86.3%と前回は大きく（それぞれ14.7ポイント、29.8ポイント）上回り、歯石除去や健診受診者も増加しました。高齢者から幼児まで歯の健康への関心が高まっています。国民の健康を支えるために大切な口腔機能維持に歯科が大きく役立っている結果と言えると思います。府中市歯科医師会では、口腔の機能と健康について歯科医療連携推進事業研修会を毎年開催して、地域の方の期待に応える事ができるよう会員資質の向上を目指しています。平成20年2月は口腔機能評価法とその後の口腔機能訓練について日本歯科大学 菊谷 武先生。平成21年3月には摂食機能評価と訓練法のテーマで日本大学歯学部摂食機能療法学講座准教授 戸原 玄先生の研修会を多くの会員参加のもと開催しました。今後の在宅医療で益々必要性の高まる課題の解決に、歯科分野での対応を考えての事です。

府中市では以前から府中市医師会、歯科医師会役員連絡会を開催していましたが、平成19年度から薬剤師会も参加して三師会連絡会を開催しています。府中市保健センターを中核に、地域が抱える各種課題に三師会が一体となって取り組んでいます。これからの少子高齢化社会で、地域住民の口腔機能とからだの健康維持により多くの成果が出せるように、三師会は更なる密な連携の必要性を感じています。



産婦人科からの

お知らせ

産科外来における 「妊娠初診連携医枠」停止のお知らせ

連携医の先生方には、常日頃大変お世話になっております。本年もどうぞよろしくお願いたします。おかげ様で平成22年3月より開設した「総合周産期母子医療センター」は、順調に滑り出し、試行錯誤をしながらいろいろ問題もありましたが、運営も何とか軌道にのってまいりました。これもひとえに近隣の連携医の先生方のご理解とご協力のおかげと、スタッフ一同深く感謝しております。

しかし、今回大変恐縮ですが、お願いとお知らせをさせて頂きたいと思っております。まだ丸一年を経過しておりませんので、正確な数字は出せませんが、母体搬送をできるだけ受け入れていきたい、と思いと、年間に母体搬送約200件程度と予想されます。妊娠途中でご紹介いただくハイリスク妊娠がおそらく年間約300~400件程度と予想されます。ベッド数は、MFICU9床とそのバックベッド30床、一般産科病床が12床の計51床ですが、重症妊婦を常時受け入れるために毎日1~2床は空けておかななくてはなりません。

全前置胎盤の出血例や極早期の切迫早産、前期破水、多胎等は入院期間も長くなる傾向にあり、在院日数の調整が困難です。私たちは、当院で出産を希望して下さる方を、なるべくお引き受けしたいと思っておりますが、現実的には一部の方しか分娩予約をお引き受けできない状態になっております。今までご利用いただきました「妊娠初診連携医枠」は、大変申し訳ありませんが、今後停止させていただき、一般の「妊娠初診枠」をご利用いただきたい、と思っております。母体搬送とハイリスク妊娠は、可能な限り受けてまいりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。今後とも、ご指導ご鞭撻をよろしくお願いたします。

都立多摩総合医療センター 人事異動

【退職】平成22年12月31日付
泌尿器科(非)

酒井 真人

【採用】平成23年2月1日付
内科(常)→(非)

大橋 琢也

【退職】平成23年1月31日付
脳神経外科

吉野 正紀

外来担当医のみ掲載しております。(非)は非常勤医師



ホルモン産生を伴う上皮性卵巣癌の1例

産婦人科 医長 伊田 勉

【症 例】 60歳女性

【主 訴】 腹部膨満

【現病歴】 数ヶ月前より下腹部腫瘍を自覚、鍼灸院で子宮筋腫といわれていました。その後、月に1回ほどの数日間の性器出血が出現。腹部膨満感も伴うようになったため前医婦人科を受診しました。大量の腹水および左卵巣腫瘍を認めたため、卵巣癌あるいはMeigs症候群疑いにて当院紹介となりました。

【既往歴】 34歳時に交通事故で両眼の視力喪失。

【妊娠分娩および月経歴】 0経妊0経産、閉経52歳

【当科初診時所見】 帯下は暗赤色少量、内診上、ダグラス窩に新生児頭大の腫瘍を触れ、可動性はやや不良でした。腹部は軟で膨満を認めました。

【検査所見】 血算、生化学、有意所見なし。エストラジオール108pg/ml、テストステロン3.71mg/ml、卵胞刺激ホルモン9.19mIU/mlと閉経後に一致しないホルモン産生あり。CA125 295.1U/mlと上昇。

【経膈エコー】 子宮に異常なし、左付属器に15×7cmの充実性腫瘍あり、腹水多量。

【CT(図)、MRI】 左卵巣充実性腫瘍、卵巣癌疑い。腹水貯留。

【子宮細胞診】 悪性所見なし。

【腹水細胞診】 悪性所見なし。

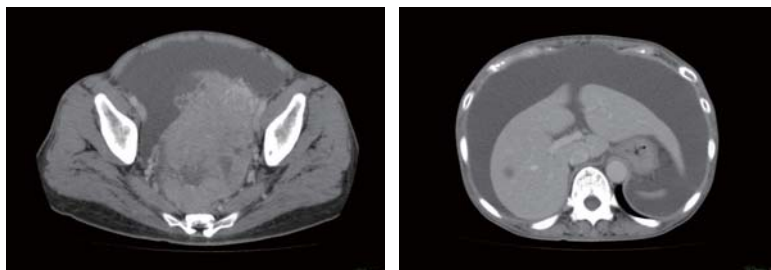


図 (CT画像)

【臨床経過】 検査結果よりホルモン産生を伴う充実性卵巣腫瘍であり、腹水は悪性所見を伴わないことから、比較的まれな組織型である良性～悪性の性索間質性腫瘍およびそれに伴うMeigs症候群と考え手術を行いました。

開腹所見では、漿液性腹水6L、左卵巣に10cmの軟な充実性腫瘍を認め、子宮後壁への癒着を認めました。腹膜播種および明らかなリンパ節腫大は認めませんでした。子宮および両側付属器を摘出し、術中迅速診断では明らかな上皮性腫瘍ではなく、性索間質性腫瘍などの境界悪性以上の悪性腫瘍も疑われる所見でした。そのため、大網切除を追加し手術終了としました。開腹採取の腹水にも悪性所見は認めませんでした。

術後、腹水産生は速やかに消退し、術後8日目に退院となりました。

最終病理診断は、組織形態は性索間質性腫瘍に類似するものの、免疫染色にて上皮性マーカーが陽性であり、endometrioid adenocarcinoma resembling sex cord-stromal tumorとなりました。卵巣癌の中でendometrioid adenocarcinomaは約20%を占めるものですが、まれに性索間質性様の組織像を呈することが知られています。本症例はそのような稀な1例でありました。

また、本症例で見られた閉経後の不正性器出血は、腫瘍より産生されたエストロゲンの影響と考えられ、繰り返す不正性器出血の原因としてエストロゲン産生腫瘍も考慮する必要があると考えられました。



ホームページのご案内

当院では、公式ホームページを作成しております。
毎月更新される外来担当医師一覧表や、各科の詳しい概要、懇話会のお知らせ、連携医一覧表など詳しく掲載しております。
お役に立てる情報もあるかと思しますので、ぜひご覧ください。
(アドレス <http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/>)



医療連携臨床懇話会（第69回）

日時：平成23年3月3日（木）午後7時～午後9時

会場：当院4階401会議室（大会議室）

講演内容：①「虚血性心疾患のカテーテル治療」循環器内科 医長 田中 博之

②「東京都における重症熱傷救急体制と最近の治療法」形成外科 部長 樋口 良平

※当院で開催する懇話会は、日本医師会教育生涯制度における単位・カリキュラムコードの付与対象となっていますので、参加された先生方には「参加証」をお渡ししています。

各種講習会・勉強会のご案内（患者さん向け）

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会（会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト）

- 「糖尿病神経障害」「フットケアについて」「食事の自己評価方法」

日時：平成23年3月16日（水） 午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係（加藤・中台 内線2171）まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL：042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX：042-323-9205

緊急の場合…必ずご一報ください。

可能な限り専門診療科をご指定の上、
担当医にご連絡ください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111（代表）
ホームページ <http://www.fuchu-hp.fuchu.tokyo.jp/>

